

持続的な森林保全に向けて <その4>

マングローブ林の保全と地域住民の参加

マングローブに関しては、「マングローブ生態系に学ぶ」というシリーズを第43号～48号に掲載したが、特に乾燥地における貴重な緑資源や生態系の保全という観点からも、マングローブ林は重要な意義を持っている。マングローブ林の保全や植林及び維持管理を適切に行うために、オマーン国において開発調査及び技術協力プロジェクトが下表のように実施された。

『マングローブ林再生・保全・管理計画調査』において、我々は調査対象地区の自然環境（地形・土壌・水質等）調査に加えて社会経済調査も実施した。湿地帯での調査活動は困難を極めたが、地域住民の協力も得て、マングローブ林は燃料、建材、家畜飼料等の直接的利用の他に、エビ・魚等の水産資源の涵養地や養蜂の場として利用されていることが分かった。また、活動の一環として小学生を動員して実施した苗木の定植や海藻の除去作業を通して、生きた環境教育の場を提供できることも分かってきた。このような調査を通して作成されたマスタープランにおいては、継続的なマングローブ林生態調査の実施やそのための人材育成、及び地域住民への啓蒙活動や環境教育を実施するために、マングローブ情報センターを設立する構想が提言された。

この提言に基づいて実施された『マングローブ環境情報センター（QEIC）開発プロジェクト』は、オマーン国内および周辺地域のマングローブ保全の拠点となるセンターの体制構築や人材育成を目的とした技術協力プロジェクトであった。本プロジェクトでは、センターの主な機能であるマングローブ植林、モニタリング、環境教育及び研修等の分野における体制構築や人材育成のための活動が実施された。

マングローブ情報センター構想においては、センターが設立・整備され、センター職員の能力強化も

行われて、環境教育や普及活動の拠点となることが期待されている。当センターが、日本各地にある自然観察や野鳥観察のためのビジターセンターのような機能を果たして、訪問者や地域住民のために展示活動や観察会等を実施して、マングローブ林の保全に関わる啓蒙活動や環境教育が実施されることが望まれる。

そのために、技プロ活動ではさまざまな取り組みを行った。たとえばセンターにおける常設展示や企画展示等の展示計画の作成や、環境教育プログラムの開発、各プログラムで使用する教材の作成等を行った。こうした活動を通して、マングローブ林やその生態系に関わる情報発信を行うことが理解を深めることにつながる。

さらに、住民参加を促進する工夫としては、マングローブ苗木植林を小中学生やその保護者あるいは観光業者を招いて行ったり、学校を訪問して環境教育プログラムを実施したりした。こうした活動を住民参加で行うことにより、意識向上や保全能力の強化を図った。このような取り組みは地道で、人々の意識の変化という点ではなかなか成果が見えにくい、活動を計画的かつ継続的に行っていくことが、持続性の確保にもつながっていくものと考えられる。



マングローブ林内で泥だらけになって行った土壌調査



マングローブ植林用の苗木を小学生たちに配布

プロジェクト名	マングローブ林再生・保全・管理計画調査	マングローブ環境情報センター開発プロジェクト
目的	マングローブ林の再生・保全・管理について自然環境および社会経済学的特徴に基づくマングローブ林候補サイト毎の計画、実施関係者の能力育成プログラム、住民に対する啓蒙プログラムからなるマスタープランを策定する。	「マングローブ環境情報センター（QEIC）」がオマーン国におけるマングローブ生態系の持続的な管理を促進するためのセンターとしての準備を整えるための体制構築や人材育成を目的として実施する。
主な活動	<ul style="list-style-type: none"> - 既存マングローブ林の現況調査（自然環境及び社会経済状況） - 各マングローブ生態系の価値の評価と類型化 - マングローブ植林技術ガイドラインの作成 - マングローブ林の再生・保全・管理計画に係るマスタープランの作成 	<ul style="list-style-type: none"> - QEICスタッフの能力強化のための研修教材の作成、研修実施及び研修ガイドライン作成 - マングローブ生態系モニタリング手法の検討 - マングローブ植林ガイドラインの作成 - 環境教育プログラムの実施・改善と教材作成 - マングローブ林/生態系のデータベース作成